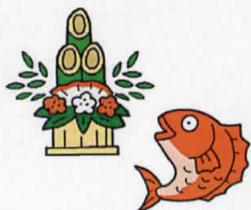


# きゅうしよくだより

令和4年1月号(小学校)  
昭島市学校給食共同調理場  
TEL 042-541-8041



1月は、お正月に始まり、人日の節句、鏡開き、小正月など、日本ならではの行事がたくさんあります。このような季節ごとの行事や、特別な日にいただく料理を「行事食」といいます。行事に込められた願いを知って、大切に向き合っていくことが、日本の伝統的な食文化を守ることに繋がります。日本の行事を、楽しみましょう！

## あきしまの畑からこんにちは！

12月の給食で実施した「昭島産野菜が主役メニュー！」のご報告をします。

12月8日(水)

### 「昭島野菜のチキンカレー」の献立

「子どもたちが野菜を美味しくもりもり食べられるカレーライスに昭島野菜を使いたい！」と考えて作りました。

この日は、鮮やかなオレンジが美しい「オランダジャ」いうにんじんを田中町の農家さんから、みずみずしく煮えやすい「冬自慢」という大根を上川原町の農家さんから出荷していただきました。

12月10日(金)

### 「おふくろだいにんのうま煮」の献立

おふくろだいにんは中央が太くふくらんだ形をしています。通常のだいにんよりもかなり大きく、肉質がきめ細やかで煮込むと大変柔らかい食感になる、という特徴があります。宮沢町の農家さんに出荷していただいた立派なおふくろだいにんを、ごろっと大きく切って、よく味の染み込ませた煮物を作りました。



12月9日(木)「拜島ネギと冬野菜の味噌煮」の献立

江戸東京野菜のひとつである「拜島ネギ」を主役に、昭島産の白菜や大根、にんじんをじっくり煮込んで味噌煮を作りました。子どもたちからは、「ネギが甘かった!」、「また食べたい!」といった嬉しい感想がたくさん届き、その声をまた生産者の方に伝えることができました。

大切な昭島市の伝統野菜である、ということを受けて、調理員さんたちもより一層心を込めて作ってくれました。たくさんの人たちの気持ちがこもった給食が子どもたちに届き、健康の礎になること、こんなに嬉しいことはないと感じています。



## 全国学校給食週間について

日本の学校給食は、明治22年に山形県鶴岡市の忠愛小学校で提供された昼食が始まりとされています。戦争で中断された給食は、戦後食料不足で苦しむ子どもたちのために、昭和21年に再開されました。学校給食のはじまりの歴史を忘れないために、1月24日から30日は「全国学校給食週間」と定められました。

この機会に、1月は作り手である「給食調理員さん」に注目をして、動画等を活用して発信していきます。取り組みについては、今後の給食だよりでまたご報告いたします。



Q 給食を作る上で、大切にしていることは何ですか？

⇒みなさんの健康と栄養のバランスを考えて作られた献立を、栄養士さんと同じ気持ちで、美味しく、きれいに、そして安全に作ることです。

Q 毎日心を込めて作ってくれていますが、特に気合いが入る献立は何ですか？

⇒子どもたちが大好きなカレーライスや、トマトをよく煮込んで作るチキンチャートー、苦みを抑えて美味しく仕上げるように工夫したゴーヤチャンプルー等です。



## 令和3年度 学校給食食育展示について

学校給食に関する昭島市の食育の取り組みについて、広く市民の皆様へ発信するために、「全国学校給食週間」に合わせて、企画展示を行います。皆様お誘い合わせのうえ、ぜひお越しください。

日時：令和4年1月25日(火)～28日(金)  
午前10時から午後8時(最終日は午後4時まで)  
会場：アキシマエンス 国際交流教養文化棟 1階  
市民ギャラリー

テーマ：「子どもたちの未来のために ～給食で育む健康な体と豊かな心～」

- 内容 ○ 小・中学校における食育の取り組み  
○ 地場産物の取り組み ○ 郷土料理の取り組み  
○ 和食文化の発信の取り組み ○ お弁当の日の取り組み など



## <令和3年度の取り組みのご報告>



光太郎さんの作った<sup>作り</sup>押島ネギを食べ  
て元気育ってほしい<sup>気持ち</sup>。  
押島ネギがおいしい<sup>気持ち</sup>。また食べ  
たいと思<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>。  
い<sup>気持ち</sup>と<sup>気持ち</sup>かん<sup>気持ち</sup>ば<sup>気持ち</sup>う<sup>気持ち</sup>て<sup>気持ち</sup>作<sup>気持ち</sup>ら<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>る。  
ぼくが<sup>気持ち</sup>感<sup>気持ち</sup>じ<sup>気持ち</sup>た<sup>気持ち</sup>ハ<sup>気持ち</sup>ワ<sup>気持ち</sup>ー<sup>気持ち</sup>は<sup>気持ち</sup>、ぐん<sup>気持ち</sup>ぐん<sup>気持ち</sup>  
育<sup>気持ち</sup>だ<sup>気持ち</sup>っ<sup>気持ち</sup>て<sup>気持ち</sup>ほ<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>と<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>う<sup>気持ち</sup>。  
気<sup>気持ち</sup>持<sup>気持ち</sup>ち<sup>気持ち</sup>。押<sup>気持ち</sup>島<sup>気持ち</sup>ネ<sup>気持ち</sup>ギ<sup>気持ち</sup>！  
つ<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>て<sup>気持ち</sup>も<sup>気持ち</sup>っ<sup>気持ち</sup>と<sup>気持ち</sup>知<sup>気持ち</sup>ら<sup>気持ち</sup>べ<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>。

農家さんは、どんな思いや  
願いを込めて、押島ネギを  
作っているのかな？

学習を通して、  
どう思ったか  
な？これから、  
自分には何が  
できるかな？

押島ネギはと<sup>気持ち</sup>こ<sup>気持ち</sup>、管<sup>気持ち</sup>理<sup>気持ち</sup>や<sup>気持ち</sup>作<sup>気持ち</sup>る<sup>気持ち</sup>の<sup>気持ち</sup>が<sup>気持ち</sup>大<sup>気持ち</sup>変<sup>気持ち</sup>そ<sup>気持ち</sup>う<sup>気持ち</sup>だ<sup>気持ち</sup>っ<sup>気持ち</sup>た<sup>気持ち</sup>。  
ぼくも<sup>気持ち</sup>農<sup>気持ち</sup>業<sup>気持ち</sup>を<sup>気持ち</sup>や<sup>気持ち</sup>ら<sup>気持ち</sup>て<sup>気持ち</sup>み<sup>気持ち</sup>た<sup>気持ち</sup>く<sup>気持ち</sup>な<sup>気持ち</sup>り<sup>気持ち</sup>ま<sup>気持ち</sup>し<sup>気持ち</sup>た<sup>気持ち</sup>。そ<sup>気持ち</sup>し<sup>気持ち</sup>て<sup>気持ち</sup>、江<sup>気持ち</sup>戸<sup>気持ち</sup>東<sup>気持ち</sup>京<sup>気持ち</sup>  
野<sup>気持ち</sup>子<sup>気持ち</sup>菜<sup>気持ち</sup>と<sup>気持ち</sup>し<sup>気持ち</sup>て<sup>気持ち</sup>昔<sup>気持ち</sup>か<sup>気持ち</sup>ら<sup>気持ち</sup>の<sup>気持ち</sup>伝<sup>気持ち</sup>統<sup>気持ち</sup>野<sup>気持ち</sup>菜<sup>気持ち</sup>だ<sup>気持ち</sup>か<sup>気持ち</sup>ら<sup>気持ち</sup>大<sup>気持ち</sup>切<sup>気持ち</sup>に<sup>気持ち</sup>し<sup>気持ち</sup>た<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>て<sup>気持ち</sup>  
す。み<sup>気持ち</sup>ん<sup>気持ち</sup>な<sup>気持ち</sup>で<sup>気持ち</sup>お<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>く<sup>気持ち</sup>野<sup>気持ち</sup>菜<sup>気持ち</sup>を<sup>気持ち</sup>食<sup>気持ち</sup>べ<sup>気持ち</sup>て<sup>気持ち</sup>元<sup>気持ち</sup>気<sup>気持ち</sup>に<sup>気持ち</sup>な<sup>気持ち</sup>り<sup>気持ち</sup>た<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>て<sup>気持ち</sup>す。  
ま<sup>気持ち</sup>た<sup>気持ち</sup>り<sup>気持ち</sup>の<sup>気持ち</sup>人<sup>気持ち</sup>に<sup>気持ち</sup>と<sup>気持ち</sup>し<sup>気持ち</sup>て<sup>気持ち</sup>は<sup>気持ち</sup>、み<sup>気持ち</sup>な<sup>気持ち</sup>が<sup>気持ち</sup>大<sup>気持ち</sup>切<sup>気持ち</sup>に<sup>気持ち</sup>よ<sup>気持ち</sup>く<sup>気持ち</sup>味<sup>気持ち</sup>わ<sup>気持ち</sup>て<sup>気持ち</sup>食<sup>気持ち</sup>べ<sup>気持ち</sup>て<sup>気持ち</sup>か<sup>気持ち</sup>ら<sup>気持ち</sup>何<sup>気持ち</sup>れ<sup>気持ち</sup>嬉<sup>気持ち</sup>し<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>と<sup>気持ち</sup>思<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>ま<sup>気持ち</sup>す。

光太郎さんのお<sup>気持ち</sup>て<sup>気持ち</sup>つ<sup>気持ち</sup>だ<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>に<sup>気持ち</sup>行<sup>気持ち</sup>き<sup>気持ち</sup>た<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>な<sup>気持ち</sup>あ<sup>気持ち</sup>  
「伝<sup>気持ち</sup>統<sup>気持ち</sup>」<sup>気持ち</sup>、<sup>気持ち</sup>大<sup>気持ち</sup>切<sup>気持ち</sup>な<sup>気持ち</sup>ん<sup>気持ち</sup>だ<sup>気持ち</sup>な<sup>気持ち</sup>。」と<sup>気持ち</sup>思<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>ま<sup>気持ち</sup>し<sup>気持ち</sup>た<sup>気持ち</sup>。  
昔<sup>気持ち</sup>か<sup>気持ち</sup>ら<sup>気持ち</sup>な<sup>気持ち</sup>あ<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>け<sup>気持ち</sup>つ<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>で<sup>気持ち</sup>き<sup>気持ち</sup>た<sup>気持ち</sup>の<sup>気持ち</sup>が<sup>気持ち</sup>、感<sup>気持ち</sup>動<sup>気持ち</sup>  
ほ<sup>気持ち</sup>し<sup>気持ち</sup>た<sup>気持ち</sup>。江<sup>気持ち</sup>戸<sup>気持ち</sup>東<sup>気持ち</sup>京<sup>気持ち</sup>野<sup>気持ち</sup>菜<sup>気持ち</sup>、す<sup>気持ち</sup>ご<sup>気持ち</sup>い<sup>気持ち</sup>！光<sup>気持ち</sup>太<sup>気持ち</sup>郎<sup>気持ち</sup>さ<sup>気持ち</sup>ん<sup>気持ち</sup>  
白<sup>気持ち</sup>木<sup>気持ち</sup>古<sup>気持ち</sup>野<sup>気持ち</sup>菜<sup>気持ち</sup>長<sup>気持ち</sup>ー<sup>気持ち</sup>く<sup>気持ち</sup>続<sup>気持ち</sup>く<sup>気持ち</sup>「新<sup>気持ち</sup>種<sup>気持ち</sup>」<sup>気持ち</sup>を<sup>気持ち</sup>つ<sup>気持ち</sup>く<sup>気持ち</sup>り<sup>気持ち</sup>ま<sup>気持ち</sup>す。

東小学校において、押島ネギを通して「伝統文化の継承」について考える授業を行いました。木野光太郎さんにご協力いただき、教室と畑をタブレットで繋いで中継させてもらったり、実際に教室へ足を運んでいただき「農家さんはこんな思いをもっているんじゃないかな？」という子どもたちの考えを受けとめていただいたりしました。貴重な押島ネギを学校給食に出荷していただき、誠にありがとうございました。今後共何卒、よろしくお願いいたします。

昭島市立東小学校 兼 昭島市学校給食共同調理場・第一調理室 栄養教諭 松屋（井上）有紀子